

河原口坊中遺跡

(海老名市No.52 遺跡)

調査期間 20060601～現在継続中

所在地 海老名市河原口 152
他

時代 近世～弥生時代中期



作成日:20080901

概要

遺跡は中日本高速道路株式会社による首都圏中央連絡自動車道(さがみ縦貫道路)建設事業に伴って実施された発掘調査です。調査は2006年6月から開始し、現在も継続中です。場所は海老名市の西部、JR相模線・小田急小田原線厚木駅の北西約1kmに位置し、市域の西縁を南流する相模川中流域左岸に展開する標高21～22mの沖積微高地に立

地しています。遺跡の所在する河原口地区は小鮎川・

なかつ ^{こあゆ} さんせん
中津川が相模川に合流する三川合流地点の対岸に当たります。遺跡の北東60mには平安時代末から室町時代に活躍し、海老名市の名前の由来となった「海老名」氏の菩提寺「宝樹寺」跡と推定される墳墓が隣接しています。調査は、道路橋脚部分(ピア)のみが対象で、上下線あわせて19個のピア(P)があります。

P19 下り線では、明治20年代に作成された銅版画が残るレンガ造りの酒造施設が検出されました。酒造施設は江戸時代後期から続く山田酒造という造り酒屋で、明治時代に海老名村村長になった山田嘉穀氏が建設したことが判明しています。大正時代になって社名が大島酒造となりました。その後1935年に廃業しています。1923年には関東大震災に見舞われ、建物も大きな被害を受けたようです。調査では補



▲酒造施設



修の跡も確認されました。写真のようにかまど前が半地下になっており、その奥に煙突の大きな基礎部分が残っていました。P20 下り線では調査区西側の約 2.8m 掘り下げたところから、木の板を組み合わせて囲い、底面に礫を敷き詰めた水場(取水)遺構が検出されました。大きさは長軸約 1.3m、幅約 0.9m、深さは 35cm 前後あります。周囲から出土した土器から弥生時代末から古墳時代初頭に作られた可能性があります。周辺からも加工痕のある木が出土しています。

▲YH1 号木槽